式辞

陽ざしも徐々に明るさを増し、春の訪れが感じられる今日のよき日に、第六十四回卒業証書授与式を挙行することができますことを心から感謝申し上げます。

またご多用中にもかかわらず、いわき市議会議員　上壁充（かみかべ　みつる）様、本校ＰＴＡ会長　荒川重光（あらかわ　しげみつ）様を始め、多数のご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席をたまわり、卒業生とともに心より厚く御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、あらためて「ご卒業、おめでとうございます。」

先ほど、卒業生一人一人に卒業証書を授与いたしました。授与された卒業証書の中身を見る時間はなかったことと思います。

昨年度の卒業式でもそうでしたが、卒業生の皆さん、今、授与された卒業証書をそっと開いてみてください。

この卒業証書には皆さんが勿来二中で過ごした思い出や成長の跡が凝縮されています。

卒業証書と書かれた左側には、あなたの名前が書かれています。あなたの名前には保護者の方が、生まれてきたあなたに「この子にこうなってほしい」という願いが込められています。

そして、生年月日。この日から、あなたは、この世に生を受け、この十五年間を立派に生きてきたのです。

証書の真中には大きな文字で「中学校の全課程を修了したことを証する」と記載されています。

今まさに９年間の義務教育を終えることを意味しています。

そして平成三十一年三月十三日と記載されている本日、まさに皆さんは、思い出が詰まった勿来二中を巣立つ日なのです。

この卒業証書には今述べたこと、そして君たちの思い出や成長の跡がぎっしり詰まっています。ぜひ、自宅に帰ってから、保護者の方に、卒業証書を見せてあげて下さい。その際に一言、

「今まで本当にありがとうございました」と感謝の言葉を伝えてください。照れくさくてなかなか言えない一言ですが、その一言で保護者の方々が皆さんを育ててきた十五年間の苦労が報われることになるのです。

（それでは卒業証書を閉じてください）

私は皆さんと出会い、二年が経とうとしています。この二年間の間に、日々、皆さんが頑張っていた様子や成長していく姿を身近に感じてきました。例えば、体育祭では一人ひとりが自分の係活動に一生懸命取り組

みました。波の穂祭の合唱コンクールでは、後輩を圧倒する素晴らしい歌声に感動を覚えました。　京都での班別自主研修では、全ての班が模範的な行動を取り、最高の修学旅行にしてくれました。そして普段の授業を参観に行くと和やかな雰囲気のもと、皆さんはいつも授業に意欲的に臨んでいました。

このような素晴らしい卒業生の皆さんの門出にあたり、三つのはなむけの言葉を送りたいと思います。三つとも私が常々皆さんに話してきたことです。

一つ目は、「挑戦」。何かを躊躇して後悔する位なら、何かに挑戦して後悔した方がはるかに価値があります。

二つ目は、「失敗から学ぶ」。人は常に初めての人生を生きているのです。失敗するのは当然なことです。ただ、私達は同じ失敗を繰り返してはいけないのです。「なぜ失敗したのか。どうしたら良かったのか」を検証し、次に生かすことが必要です。その積み重ねが人としての成長に繋がるのです。

三つ目は「今を精一杯生きる」。

過去の事を反省することや未来にすべきことを考えることは必要です。しかし、一番大切なことは、「今を精一杯生きる」ということです。今生きている一瞬一瞬は二度と戻ってきません。どんなに苦しくてもどんなに悲しくても、今を精一杯生きることを忘れないで下さい。

もう一度繰り返します。

「挑戦「失敗から学ぶ」そして「今を精一杯生きる」。この言葉を忘れずに、卒業後の新しい環境でぜひ充実した日々を送ってくれることを切に望みます。

結びに、これまで陰になり日向になり、深い愛情を持って育ててこられた、ご家族の皆様、お子さん達は、様々な困難を乗り越えて、こんなに立派に成長しました。今後ともより一層の温かい見守りとお力添えをお願いいたします。

また、保護者の皆様から本校の教育活動に寄せられました、ご理解とご協力に対して、教職員を代表して厚く御礼申し上げます。

それでは卒業生の皆さん！平成から元号が変わる新しい時代を、皆さんが「夢と自信」を抱いて、未来を切り拓き、たくましく成長していくことを祈念申し上げ、式辞といたします。

平成三十一年三月十三日

いわき市立勿来第二中学校長　若松　真一